

低コストで効率的な施業に向けて

～コンテナ苗の活用と一貫作業システムの普及～

十勝東部森林管理署

【現状・課題・目的】

十勝管内の民有林では林業担い手の育成・確保が地域課題の1つになっています。それに伴い、施業の省力化・軽労化の取組みが求められています。

森林管理署では、材の搬出や造林作業における低コストで効率的な施業に係る情報発信、現地検討会の開催、意見交換等に取り組んでいます。

【これまでの取り組みや成果】

平成26年度より十勝3（支）署で「列状間伐施業の推進」に取り組み、道有林の列状間伐箇所での意見交換、実行管理推進チーム会議で情報共有、振興局主催の現地検討会で情報提供するなどした結果、道有林で2回目列状間伐と一部の自治体で列状間伐が実施され始めました。

また、平成27年度からはコンテナ苗に係る現地説明会を毎年実施し普及と啓発に努め、平成28年度には道有林と町有林合わせて約1千3百本植栽され、平成30年度には道有林で約2万本の植栽が計画されています。

【平成29年度の取組結果・成果】

①秋植コンテナ苗現地検討会を開催し、コンテナ苗のメリット等を説明しました。

- ・当署では気象害を懸念し、裸苗ではほとんど行っていなかった秋植栽に合わせてコンテナ苗検討会を開催。
- ・造林事業に直接携わる森林組合関係者の理解が普及のカギになると考え、当署管内の全ての森林組合に検討会を案内しました。
- ・検討会は、民有林のカラマツ皆伐後の林地に類似していて植栽をイメージしやすい平坦な台風被害跡地を選定しました。
- ・コンテナ苗や植付器具を初めて見る参加者も多く、コンテナ苗植栽のメリットについて理解を深めてもらうことができました。
- ・「コンテナ苗が補助対象になれば直ぐに導入したい」「来年、この現地を見たい」との要望が多く、継続して情報提供等を行っていきます。



アースオーガーによる植穴の試し掘り

②一貫作業システム現地検討会を開催し、低コストで効率的な施業の理解と普及を図りました。

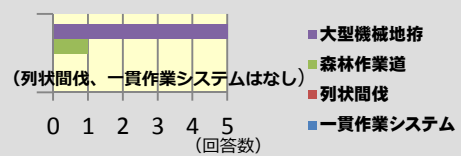
- ・伐採・搬出後に直ちに地拵を行い作業の効率化と労働強度の低減を図る一貫作業システムを、森林組合や実行管理推進チーム構成員にも幅広く紹介しました。
- ・伐採と造林の一括発注は、別発注と比較して地拵にかかる経費を約1割節減できることを説明しました。
- ・バケットを用いた地拵は、人力地拵と比較して1時間当たり約3倍以上の面積を処理できることを説明しました。
- ・検討会では個々の効率的な施業と、それらの組み合わせにより更なる効率化の可能性について説明し、理解と普及を図りました。



バケットを用いた大型機械地拵

関心が高かった取組テーマ

(回答：4自治体、1森組、1社有林)



【今後の目標】

○低コストで効率的な施業の一般民有林への普及を目指します。

- ・森林作業道の作設技術の普及、コンテナ苗の活用、大型機械地拵による造林作業の省力化等
- ・地域への情報発信、現地検討会の開催

【今後の取り組みで目指すところ】

特に機械化が遅れている造林作業と、その省力化に係る国有林の取組みに注目度が高いこと、また、これまでの森林管理署の取り組みが実際に省力化、低コストにつながるか、検証を行って欲しいといった要望が多く聞かれました。

このことから、過去に造林作業の省力化（簡易で丈夫な森林作業道の作設、コンテナ苗植栽、大型機械地拵）に取り組んだ現地等において検討会等を行い、管内の民有林の施業に実際に取り入れられるよう、引き続き理解と普及を図っていきます。